

お知らせ

記者発表資料	平成25年 12月19日
配布日	

資料提供先：広島県政記者クラブ
合同庁舎記者クラブ
中国地方建設記者クラブ
岩国市政記者クラブ

平成25年度「かわまちづくり」計画の登録について
(全国6箇所(内変更1箇所)、広島県・山口県 1箇所)

「大竹和木かわまちづくり」計画の登録書伝達式をおこないます。

国土交通省水管理・国土保全局では、地域の景観、歴史、文化等を活かし、地方公共団体や地域住民との連携の下で、河川空間とまち空間の融合が図られた良好な河川空間形成を目指す取り組みとして平成21年度から「かわまちづくり」を支援する制度を運用しています。

この支援制度は、地域づくりに資するファローアップ(ソフト支援)として河川敷地占用許可準則の特例措置の実施等や、「かわまちづくり」の推進主体として連携し、まちの空間と融合する河川空間を創出するため、治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設を整備(ハード支援)するものです。

このたび、広島県と山口県、二つの県の間には流れる小瀬川において大竹市と和木町より申請のありました「大竹和木かわまちづくり」計画が、平成25年11月12日付けで登録されましたので下記のとおり登録書伝達式を行います。

記

伝達式日時、場所、出席者 : 別紙のとおり

問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 太田川河川事務所
電話 082-222-9246 (計画課)

【担当】

副所長(改修) 湯浅 文司(内線204)
計画課長 先灘 啓二(内線261)

【大竹市】

伝達式実施日時、場所、出席者

日 時 : 平成25年12月24日(火) 14時30分から

場 所 : 広島県大竹市小方1丁目11-1

大竹市役所 3階応接会議室

出席者 : 大竹市長 入山 欣郎(いりやま よしろう)

大竹市副市長 大原 豊(おおはら ゆたか)

大竹市 建設部 部長 長谷川 寿男(はせがわ ひさお)

大竹市 建設部土木課 課長 平田 安希雄(ひらた あきお)

大竹市 建設部土木課 主幹 小田 健治(おだ けんじ)

太田川河川事務所長 植田 彰(うえだ あきら) 他

【和木町】

伝達式実施日時、場所、出席者

日 時 : 平成25年12月24日(火) 16時00分から

場 所 : 山口県玖珂郡和木町和木2丁目1番1号

和木町文化会館 1階講習室

出席者 : 和木町長 米本 正明(よねもと まさあき)

和木町副町長 河内 洋二(こうち ようじ)

和木町 企画総務課 課長 田中 雅彦(たなか まさひこ)

和木町 都市建設課 課長 末岡 靖士(すえおか やすし)

和木町 都市建設課 課長補佐 藤岡 隆(ふじおか たかし)

太田川河川事務所長 植田 彰(うえだ あきら) 他

「大竹和木かわまちづくり」(国、大竹市、和木町)

市町村名： 広島県大竹市、山口県和木町

対象河川： 小瀬川水系小瀬川

1. 概要

大竹市では、「第五次大竹市総合計画」において重点的な取り組みとして「スイスイワクワク 散歩道プロジェクト」を掲げ、小瀬川沿川では歴史的遺産や主要な見どころを散歩ルートでつなぎ、市民はもちろん、市外の人にも楽しんでもらえることをめざしている。

和木町では、住民の健康増進等を目的とした健康づくり計画「健康わき21」に、兩岸を周遊可能なウォーキングロード「マイナスイオンコース」を位置付けるなど、散策やウォーキング等で地域交流を行い地域活性化をめざしている。

本計画では、国土交通省が河川管理用通路の整備を兩岸併せて行うとともに、両市町が既存のウォーキングマップ等の更新を行うことにより、南北方向に走るJRや旧道により妨げられていた東西方向の地域間交流が解消されるだけでなく、広島・山口両県を周遊できるルートも確保されることで、地域の活性化を推進する。

2. 整備内容 国：管理用通路整備

市町：ルートマップ作成・PR等利用推進



かわまちづくり支援制度

～良好なまち空間と水辺空間の形成～

観光などの活性化に繋がる景観・歴史・文化等の河川が有する地域の魅力という「資源」や地域の創意としての「知恵」を活かし、地方公共団体や地元住民との連携の下で立案された、実現性の高い河川や水辺の整備・利活用計画による、良好なまちと水辺が融合した空間形成の円滑な推進を図ります。

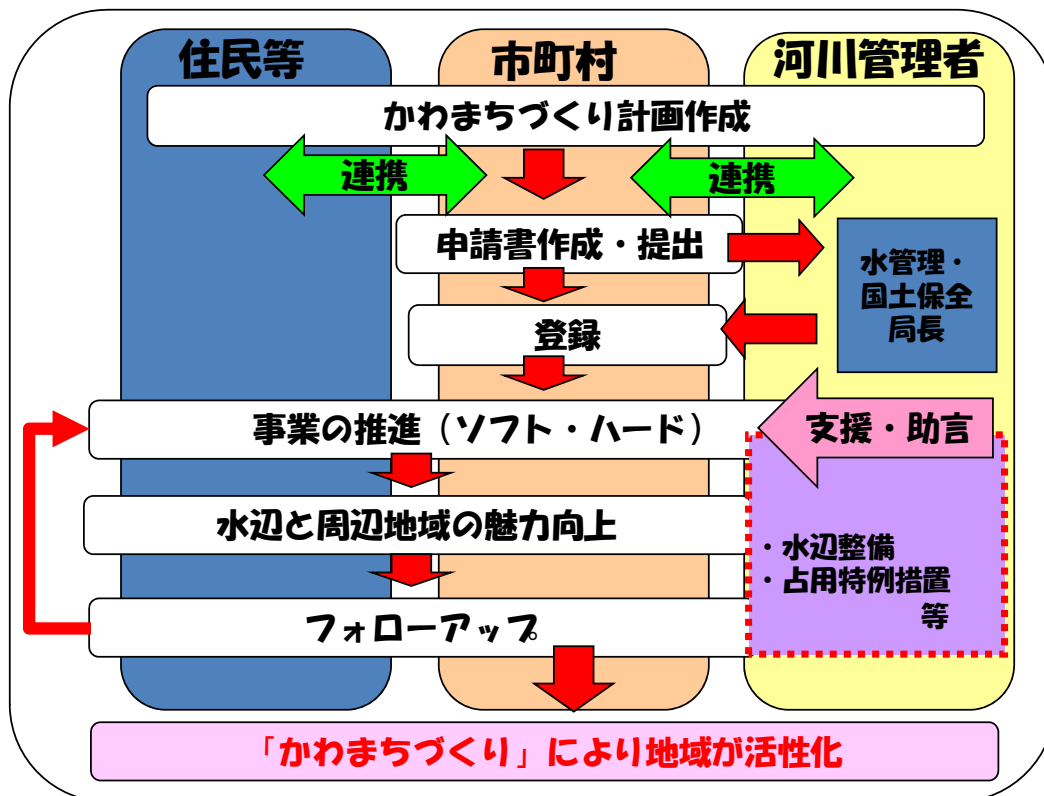
○事業概要

ソフト支援：民間事業者による河川敷のイベント広場やオープンカフェ等への利用制度（都市及び地域の再生等のために利用する施設に係る占用の特例）等を活用、河川管理者として「地域づくりのためのフォローアップ」を積極的に支援。

ハード支援：治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を通じ、まちづくりと一体となった水辺整備を支援。



管理用道路をフットパスとして活用（最上川）



図：かわまちづくりの流れ